

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

番号 1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音（さまざまな音に興味をもたせ主体性に取り組む）

<テーマの設定理由>

5歳児クラスを対象として、日常の音・自然の音・楽器の音に興味をもち楽しく取り組めるよう働きかけました。手作り楽器を使って発表会や専門講師のアドバイスを受けながら自分の担当楽器を演奏し、他の楽器と聞き合いながら音楽会で披露しました。音楽会後も園児同士いろいろな楽器に触れ合い更なる向上と豊かな感性をもった子どもに育つよう探究活動をすすめていきます。

2. 活動スケジュール

9月 生活音を聞く 自然の音に親しむ
10月 容器の音の違いを知る 園にある生活音、ハンドベル等で音の違いを楽しむ
11月 音色や強弱の違いを知る 専門講師の指導に従い、楽器の扱い方や音色の違いを知る
12月 手作り楽器 身近な物や家にある廃材等を利用し楽器を作る
1月 手作り楽器発表会 少人数での発表
2月 音楽会 日々練習してきた楽器を使い保護者の前で発表する
3月 好きな楽器の演奏 曲を流しながら他の楽器にも触れ演奏を楽しむ

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

(道具)

ハンドベル、マラカス、ドラム、カスタネット、ペットボトルマラカス、カスタネット、たいこ、マリンバ、トラスピーマリンバ、バスマリンバ、ビブラ、ドラムセット、シンバル、ティンパニー、シンセ、トラスピー他

(環境設定)

- ・ボディペンティングで色々な音を探そう・周囲の音を感じとるために静かな空間を整えた。
- ・音の出る楽器作りの制作・手作り楽器を作ろう、演奏しよう
- ・好きな楽器で演奏してみようなど

(活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり)

- ・ボウルの中の泡絵の具をかき混ぜる際の「シャカシャカ」が楽しくてリズムカルに混ぜている姿があった。
- ・ハンドベルの振り方で音が変わることに気づき自分たちで試している姿が見られた。
- ・自分で作りたい楽器を選んで楽しみながら制作した。
- ・自分の楽器は「こんな音がするよ」と、聴かせ合っている姿があった。
- ・いろいろな音を触れてとても楽しそうだった。など



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・小さな音にも気付いて一緒に反応していきたいと思った。
- ・大人が思っているよりも音を楽しむ姿があり、頑張って音を探そうとする姿が見られた。
- ・練習以外の時間にも触れてもらいハンドベル自体を楽しめる時間を設けたい。
- ・指導してもらったことでしっかり意識するようになった。
- ・皆で合わせたことで楽しさに気付いた子がいた。
- ・曲に合わせて自分で作った楽器で演奏できた事が凄く嬉しそうだった。など

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

番号 2

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体操（運動用具を使用しアスレチック活動に興味をもたせ主体的に取り組む）

<テーマの設定理由>

4.5歳児クラス対象として「アスレチック」をテーマとする。探究活動を実施しました。園にある遊具や運動用具に興味を示し、更に新しい巧技台をとり入れたことにより、子どもたちの体を動かすことの楽しさ、創造力、探究心など心身共に健康な子どもに育つ効果が現れてきたように思います。まだ、発展途上なので子どもたちの意見もとり入れながら主体的にすすめていきます。

2. 活動スケジュール

9月ボルダリング、平衡台 アイディアを出し合い子供たち中心に輪を広げていく

10月マット遊び 単体での遊びで主体性を持たせるのは難しい

11月マット、跳び箱 跳び箱に興味を持っている子が多く積極的に取り組む

12月登り棒、鉄棒 目標をおくことにより活発になる

1月巧技台 新しい巧技台ということで試行錯誤しながら行う

2月巧技台、フープ、積み木 何度か巧技台の実施により遊びの幅が広がる

3月巧技台、平衡台、マット、跳び箱、フープ、固定遊具、スライダー

様々な遊び方を自主的にまた子供たち同士で考え発展させていく。

3. 探究活動の実践（年長クラス）

<活動の内容>

（道具・環境設定）

平衡台、ボルタリング、のぼり棒、ビニールテープ、マット、平均台、トンネル、フープ、跳び箱、鉄棒、補助板、巧技台、縄飛び、ストライダー等

（活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり）

・平衡台もボルタリングも子どもたちでアイデアを出してゲーム性を持たせたり、配置を変化させたりして工夫しながら遊んでいた。保育者がアイデアを褒めるとさらに考えようとしていた。

・ボルタリングでは子どもたちに同士で色を指定し、指定した色だけで登っていけるか競争していた。

・体操で跳び箱の導入指導があり、上手に行っていた。

・真っ直ぐ回れたお友達には自ら拍手する姿が見られ、曲がってしまったり、マットから外れてしまったお友達に対しては「こうしたらいいよ」などのアドバイスをしていた。など



4. 振り返り

- ・もっといろいろなアイテムがあると更に探究心を引き出せると感じた。
- ・のぼり棒にビニールテープで目安の印をつけた所、自分がどのあたりまで登れたかわかりやる気につながった。
- ・跳び箱は保育者がいないとできないので自由度は低く主体性を持たせるのは少し難しいかもしれない。
- ・自主的、自発的には子どもの方から跳び箱がしたいと発信して活動に移せていた苦手な子の探究心を引き出すためにもう少し工夫が必要だったと思う。
- ・目標があると良いがもう少し低くしてるともっとやってみようと思えるかもと感じた。
- ・自分たちでコースを作るとやる気がいつも以上に増していたように思う。
- ・子どもたちと何度もアスレチック遊びをする中で、簡単よりも少し難しいことを好んですることがわかった。
- ・巧技台の高さをかえるとやる気をだして挑戦していた。 など

3. 探究活動の実践（年中クラス）

<活動の内容>

（道具・環境設定）

平衡台、ボルタリング、ブロック、大なわ、パランスポール、マット、トンネル、フープ、鉄棒、巧技台、縄飛び、等

（活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり）

- ・年長さんが行っている姿を見て興味を持ち加わる姿が見られた。
- ・難しそうな所では手をとる役割をひきうける子もいた。
- ・自分達でコースを作って楽しんでた。使うものも増え並べ方を工夫したり相談する姿が見られた。
- ・2本の縄にあたらないようにくぐるのがとても盛りあがり「やりたい」と声を掛けてくる子も多かった。
- ・年長さんが行っているのを見たことがあり自分達も行えて嬉しそうだった。 など

写真



4. 振り返り

- ・高さが怖い子もいたり身体的な成長の差（歩幅やバランス等）から難しい所もあるが無理して行おうとする子もいるので危険がないよう見守り声を掛けていきたい。
- ・話し合いが上手く進まない時もあるがそれぞれ思うように進めていった結果上手くまとまっていたり子ども達の柔軟性発想力の豊かさが感じられた。
- ・手を離してしまう子や近付きすぎてしまう子もいるので危険のないよう声を掛けていきたい。一人一人できる事を無理なく行えるよう見守っていきたい。 など